

伊賀市 事務事業評価シート

施設の管理・運営

事業名	1299	新都市浄化センター維持管理経費	会計	11	公共下水道事業
基本施策	22	全市的に生活排水処理施設を整備する	款	01	事業費
			項	01	施設管理費
			目	01	施設管理費
担当部課名	建設部下水道課			細目	101
作成者氏名	松本 秀喜	連絡先	22-9821	細々目	02
					新都市浄化センター維持管理経費

事業の計画・内容

設置目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	新都市処理区域内(ゆめが丘区内、区域面積A = 161ha)から排出される家庭等の雑排水及びし尿	処理区域内の家庭等から排出される雑排水及びし尿を処理施設の適正な維持管理により、浄化、排出することにより、地域の公衆衛生及び環境衛生の向上、並びに公共用水域の水質保全が図られ、快適な生活環境の中で暮らすことができます。
本年度事業内容	処理施設の維持管理業務(保守点検・汚泥処分等)を委託し、適正な維持管理を行うとともに、維持管理費の節減に努める。	
運営主体	直営 (委託先:)	指定管理 民間委託等 根拠法令・要綱等 下水道法・伊賀市公共下水道条例、同管理規則
市内の類似施設	柘植浄化センター、せせらぎ浄化センター、島ヶ原浄化センター	

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
投入人員	0.5	0.5	0.5
正規職員 (人)			
人件費合計(A)	3,600	3,600	3,600
支出内訳(千円)			
事業費(B)	59,282	61,257	70,555
委託料	38,450	34,959	39,446
工事請負費	4,169	6,650	9,250
その他	16,663	19,648	21,859
合計(A+B)	62,882	64,857	74,155
財源内訳(千円)			
特定財源			
国県支出金			
受益者負担			
その他特財	48,038	61,257	54,860
一般財源	14,844	3,600	19,295
上記 ~ に関する特記事項	財源内訳の「その他特財」は使用料金を充当		

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
施設保守点検	回	242	242	242			
水質検査(週/回)	回	52	52	52			
使用料金徴収戸数率(徴収戸数/賦課戸数1,172)	%	91.6	100	100			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
排出基準達成率(達成回数/測定回数)	処理水の品質検査結果が、浄化槽法及び水質汚濁防止による排出基準を満たしていることが、重要であります。このことから、水質検査測定回数に対する達成回数の比率を指標とすることによって、適正な維持管理ができてきているかを把握できます。	%	100 目標 (100)	100	100
使用料金徴収率(徴収額/調定額)	施設の健全な経営と適正な維持管理を行うには、使用料金の徴収率を上げることが重要であります。このことから、使用料金の調定額に対する徴収額の比率を指標とします。	%	92.4 目標 (100)	100	100

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

新都市浄化センターは、上野管内市街地の南東約3kmに位置し、緑に包まれた潤いのある居住空間、産業、教育、文化、スポーツ・レクリエーション等の複合的な機能を備えた、人と自然と企業が調和した未来都市「上野新都市」が計画され、この区画整理事業の一環として、平成4年度に建設に着手し、平成8年度に計画の3分の1系列を完成し、平成9年4月1日に一部供用開始しました。その後、区域内人口の増加に伴い、平成14年4月に第2系列目を増設し現在に至っています。処理施設は、今日まで機器等の更新をしながら、大きな故障もなく順調に稼働していますが、健全な経営を行うためには、使用料金の徴収率の向上、並びに維持管理経費節減のため、発生汚泥の減量対策等の検討が必要であります。

評価	必要性	4	当施設は、処理区域内の公衆衛生及び環境衛生の向上、また、公共用水域の水質保全に寄与しており、市民が快適な暮らしをするには必要な施設であります。このことから、維持管理経費の確保は、不可欠であります。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	3		
	効率性	3		